

【概要】

医薬品は標的となる生体分子との特異的な相互作用により薬理効果を発現する。しばしば鍵と鍵穴の関係に例えられるこの機構を学ぶうえで、鍵の形状すなわち医薬品の基本骨格や官能基を熟知している必要がある。これまでに修得した有機化学と医薬品化学Iの知識を基礎とし医薬品の化学構造を主軸として薬理作用、薬物代謝、副作用との関連について有機化学的な視点からの理解および説明ができることを目的とする。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による